

江戸英雄理事長を悼む

三井文庫理事長江戸英雄氏は、去る十一月一日、入院中の三井記念病院において、呼吸不全のため逝去された。享年九四歳。

氏は、明治三十六年（一九〇三年）七月茨城県筑波郡作岡村（現つくば市）に生まれ、水戸高等学校を経て、東京帝国大学法学部法律学科に入学、昭和二年（一九二七年）三月卒業して、直ちに三井合名会社に入社した。昭和七年（一九三二年）には團琢磨三井合名理事長暗殺に遭遇、時代は、昭和恐慌から戦時に向かい、わが国経済も第二次大戦により深刻な影響を受けることになる。この間、氏は、三井合名会社、三井総元方、（株）三井本社と一貫して三井の中樞を歩まれた。（株）三井本社は、G H Qの財閥解体指示により、昭和二十一年（一九四六年）九月解散した。昭和二十四年（一九四九年）九月、G H Qから、三井・三菱・住友の商号・商標使用禁止指令が出されたが、氏は関係者と共同して、時の吉田茂総理に、その非合理性を直訴し、昭和二十七年（一九五二年）四月の講和条約発効をもって、禁止令を廃止に至らしめ、三井の商号復帰に積極的に尽くされた。

三井本社解散後、昭和二十二年（一九四七年）一月、三井合名会社の流れを汲む三井不動産（株）に転じ、同社を日本を代表する不動産会社に育て上げたこと、三井グループの再興に腐心されたこと等が、よく知られている。

当三井文庫については、大正七年（一九一八年）より平塚村戸越（現在の品川区豊町）の地に在ったが、戦後財閥解体により、所属母体の三井本社が解散したことにより、土地建物は文部省に売却され、所蔵資料は文部省に寄託された。

その後、社会も安定を取り戻した昭和三〇年代後半、氏を中心に三井グループの中に、文部省寄託資料の返還を望む

具体的な声が持ち上がり、賛助会社の資金援助を得て、三井家より提供を受けた現在の中野区上高田の地に、建物を建設し、財団法人の設立認可を取得して、昭和四〇年（一九六五年）再発足することができた。

また、氏に寄せられた三井家の信望のお陰もあり、当文庫は、三井家伝来の美術工芸品・切手類等の寄贈を受けて、昭和六〇年（一九八五年）五月には、別館（美術館）を開館し、現在のかたちになっている。

氏は、昭和四〇年（一九六五年）六月から平成二年（一九九〇年）五月まで当文庫の常務理事、平成二年五月から理事長。当文庫にとつて、当財団産みの親であり、育ての親ともいべき人であった。

当文庫のほか、氏の社会的な支援活動は、文化芸術教育をはじめ幅広く、その誠実なお人柄により、関与を求められた役職は枚挙にいとまがない。

三井の発展の歴史は、その時代をリードした傑出した人物の輩出により支えられてきたと思うが、氏はその中でも特筆すべき人物の一人であったことに間違いはない。

ここに、氏の永年にわたる、かつまた多方面にわたるご功績に敬意を表するとともに、当文庫としても衷心より感謝し、謹んでご冥福をお祈りする。

（館長 山口和雄）